

2023年度
学校だより
第16号

こころ

牛久第一中学校
令和6年2月22日
文責 校長 本橋和久

2月の授業づくり研修～1年 国語「話し合いで理解を深めよう」

2月は学びの成熟期です。今回の提案授業は1年の国語でした。友だちと協働することを通して、自分の思考を整理したり新たな価値に気付いたりすることがねらいでした。生徒たちには自分たちの学級のおよさを列挙し、それらをいくつかのまとまりに分類し、さらに一言で学級に見出しを付けるという課題が示されました。「よさ」とは具体的にどのようなことかと問われて、ある生徒が「(そのことが) うれしいと感じること」と表現すると、生徒たちは具体的なイメージをもって活動に入りました。補助資料の写真を見ながら過去を思い出そうとしている生徒、自分の心に残っていることを思い起こして付箋に書き込んでいる生徒、楽しかったことを友だちと語り合いながらその価値に気付いていく生徒など様々でした。学級のおよさをいくつかのカテゴリーに分類する過程で生徒たちの言葉選びが微妙に異なり、言葉に対する感性の違いが見られました。今後はこれらを共有しつつ、自分の思考や認識をさらに深めていくことを期待しています。当日は東京工業大学准教授の鈴木悠太先生と大阪の履正社中学校・高等学校の釜谷一平先生も授業を参観されました。鈴木先生からは、この単元を発想法の学びと捉えること、プロジェクト型のデザインの中に「自由」が保障されることについて、釜谷先生からは、事実とその価値について考えることは、具体と抽象を行き来する学びであることについてお話をいただきました。



学級のおよさはどんなところ？



よさをいくつかのまとまりに

令和5年度「かがやき展」 ～2月3日・4日～

今回のかがやき展には、新聞ちぎり絵、絵手紙、習字、ポスターを出品しました。新聞ちぎり絵のテーマは林檎でした。一見同じように見えても、少し離れて見るとそれぞれに個性が表れていることがわかります。絵手紙も、自分たちが栽培した野菜を描くことでそこにストーリーが生まれました。習字やポスターの作品も含めて、今回は展示の仕方にも工夫を凝らし、美術館のようにしてみました。現在は職員室前の廊下に展示してありますので、是非鑑賞してみてください。



作品のよさを際立たせる額縁と個性あふれる作品

第11回いばらきっ子郷土検定県大会～2月3日(土) 牛久一中第2学年代表チームが優勝 2度目は史上初!

2月3日(土)に水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されたいばらきっ子郷土検定県大会で、本校の2年生チームが優勝しました。2回目の優勝は史上初です。2年生は合唱コンクールが終わってから学年全員でコツコツと準備を進め、力を蓄えてきました。結果として9割以上の生徒が検定3級以上に合格したことが学年集団の力を大きく高めてきたことを示しています。その中から選ばれた10人が本番に臨み、さらにその中から5人がステージに上がりました。客席からは5人の仲間たちが声援を送っていました。



先輩招いて進路学習～2年生

2年生のキャリア教育として本校の卒業生を招いて進路学習会を開催しました。高校や大学に進学した先輩たちの話には説得力があり、2年生が自分の将来を考える契機となりました。



職業を意識して学ぶ先輩の体験談を聴く2年生

牛久シャトー清掃活動～3年生

3年生が総合的な学習の一環として牛久シャトー裏の雑木林を清掃しました。一般のお客さんが気持ちよく散策できるように植物や篠竹をきれいに刈り取りました。



社会のために惜しみなく貢献する3年生